

くどう市長と語ろう！ ふれあいトーク(第10回)



日 時 平成25年10月18日(金) 19:00~

場 所 声問町内会館(声問3丁目)

《第10回 ふれあいトーク 開催結果》

●参加者数 25名 (男女別) 男性17名 女性8名

【トークの内容】

1. 地域の防災・避難場所について
2. 学生の国際交流に関する市長の考えについて
3. 声問地区のまちづくりとエネルギー施設の活用について
4. 地域の買い物事情について
5. バスでの通学事情について
6. 地域の少子化対策について
7. 観光地の看板とイベントの駐車場について
8. 道路の除草について
9. 旧油採掘跡地について
10. 信号機の設置について

※参加されたみなさんより出されました上記のご意見・ご質問と、それに対する市長の発言（回答）を要約し掲載しております。内容によって、終了後に所管課において検討した結果及び付記事項等を合わせて掲載いたしました。また、除雪に関する質問（個別案件）は所管課において直接対応しております。

1. 地域の防災・避難場所について

◆参加者からの意見等

(質問)

- ①声問地区は昨年自主防災組織を設立した。災害を想定しての自主防災活動を計画しているが、懸念しているのが避難場所。海岸沿い、川沿いに面しているため神社の高台の避難場所しかない。市にも手をかけてもらっているが、神社やお寺の裏から上がるのに整備が必要と思う。また、ふれあい公園の展望台も冬場は除雪されず閉鎖される状況。大変だと思うが解決してくれれば安心に繋がる。
- ②防災活動の一つとして、町内の夏祭りで防災グッズの展示を進めているが、なかなか関心が持たれない。そういう部分に市も目を向けてほしい。(そういう場で)最新の情報を発信してくれれば、各町内会も防災組織を作ろうかという意識に繋がるのでは？

◆(防災安全課長回答)

はじめに声問地区の津波発生時の想定、避難方法等の説明を行い、その後質問に対する回答を説明しました。

- ・声問地区で津波については、想定(6m)では国道から山側に逃げていただければ逃られるが、岬の方は逃げるのが大変であり、ホテルめぐまさんに避難するよう協定を結んでいる。
 - ・稚内市では、地域防災計画の見直しをかけており、徒歩以外に車での避難も考えている。避難方法も含めて自主防災組織で話し合っただき、市も協力し訓練をしたいと考えている。
- ①神社の高台の裏側の方は車で上がれるが、神社やお寺側の方は笹藪で刈ってはあがるが…。他地区では自分たちの逃げる所は自分たちでということで、市職員ボランティアと町内の方も一緒に、避難路の草刈りをしている。自主防災組織がせっかくできたので何かの活動ということであれば、自分たちもお手伝いするので、皆さんの防災意識を高めながら続けて行ってはどうかと思う。相談してほしい。
 - ②これまで他地区から防災用品を借りて展示したり、去年はアルファ米を試食してもらった。今年は炊飯袋で無洗米を炊く実演をした。あその後他地区でもぜひやりたいという声が出た。(声問地区で)来年防災用品をそろえたいと聞いているが、市でも相談に乗り、地域にあったものを揃えていきたい。防災安全課では、今年冬に寒さ体験を実施するなど、備蓄品のことも検討している。自主防災組織を設立していない所からも要望がある。避難訓練や防災講演会などもやっており、地域とそういう話もしていきたいと思っている。

2. 学生の国際交流に関する市長の考えについて

◆参加者からの意見等

(質問)

- ①北星学園大学ではロシア、ネパール、韓国から留学生が来ているが、留学生を主役にしたお祭りやイベントを開けば、地域振興やまちづくりに役立つと思う。市長の考えを聴きたい。
- ②大学の留学生としてサハリン以外に日本語学科のあるアメリカなどの留学生を招いてはどうか？

◆市長の発言

(市長)

- ①あまり連想したことはないが、留学生が来てくれるのは非常に良いことと思っている。視点は違うが、中国の研修生の方が200～300人くらいいると言われ、街で買い物や地域の盆踊りなどに参加しているのを見る。何か還元してあげたいと思う。ロシアで言えば地域のお祭りではないが、サハリン館を開催し、ロシアの雰囲気に触れられるイベントは実施している。ネパールの方はエネルギー関係の研究をしており、私達も応援している。(発言の)お祭りのことは考えていないが、むしろ学園祭のようなところで盛り上げればとても良いことと思う。
- ②昔北星学園が短大だったころ、アメリカの大学への留学制度があって、(当時と違うが)基金がある。稚内の子どもたちがいろんな知識を吸収してくるのは賛成で、石垣市やサハリンなど子どもたちの交流をバックアップしてきた。もし勉強するのに基金を活用したいという話があって、お金を使うのが適切であれば、我が街の大学であり一生懸命応援したいというのがスタンス。今のところ質問のような例はないようだが。

3. 声問地区のまちづくりとエネルギー施設の活用について

◆参加者からの意見等

(質問)

声問地区において、

①観光面では空港、大沼の白鳥、ふれあい公園、メガソーラーなどがあり、福祉関係では養護学校、緑風苑、緑ヶ丘学園といった施設がある。元々稚内市の中にも観光や福祉において声問に（施設が）集中している。地域の高齢者に言われるのが「声問にこれだけの施設があるが、そのことでどれだけ活性化されているのか？」と聞かれると何も言えない。

・市全体でも高齢化・少子化が進み、そういう施設があるにもかかわらず、市の住宅は少しだけあるが、民間賃貸住宅は、はまなす地区あたりまでしかない。声問地区で働いている人もたくさんいるが、住むところがないから8、9割以上が市街地から通っている。若い人が住めば少子化の問題もいくらか変わってくるだろう。いろんな面でそこに住むことが地域の活性化にとって大きな問題。宝来地区に（新築市営住宅）あるが、まちづくりにおいて、いかに人を住まわせるかということだと思った。声問地区も（上記の）施設があって（たくさん）働いているのだから、この地区も重要性があると思う。観光やメガソーラー、それを活かした働く場所が出来れば、その活性化が稚内市全体にも関わってくる。その辺の市長の考え方を聴きたい。

②稚内の新エネルギー、クリーンエネルギーは全国的にも大きなイメージアップだが、それをうたっているだけでは意味がない。最先端のエネルギーを最北端の稚内は「こう使っている」と全国にアピールできるか、今全国一でないかもしれないが、観光に繋がる話と思う。若い人に希望を与えるものをこれからやるというのわかるが、ちょっとでも光のさすものが出てきたら、それから枝をつければよいと単純に思うがどうか？

◆市長の発言

①声問地区にいろんな施設があるが、働き手は市街地から来ており、定住に結びついていない、人の賑わいが生まれないので、それをどうするのか？将来の声問地区がどうなるのか？という非常に重い話だと思う。

・公営住宅を持ってきて、若い人を住まわせないのかというのは、他の地区でも似た話が出たが、自分も公営住宅を作ると人が増えて街が活性化すると思った事も昔あったが、公営住宅で言えば元々住宅施策というより、低所得者対策であり、（住む人の）高齢化もある。住宅をどんどん増やすわけにはいかないから、古くなったものを壊し、新しく建て替えることは、人を増やすことより住み替えが中心となる。そういう観点で冷静に考えなくてはならないだろうと思う。
(次のページへ続く)

◆市長の発言（続き）

- 声問地区は観光施設やノーマライゼーション推進地区として福祉施設があって、ここに住む住まないは別として、人がもっと出入りして活気がある地区に出来るかどうかということも質問の主旨に入ると思うが、太陽光発電施設もふれあい公園も人があふれるほど来るわけではないので、（関係者は）苦しんでいると思う。利用協議会などで活性化に取り組んでいると思うが、太陽光施設や風力発電などをエネルギー最先端の街とし、トータルで広げていくには、施設をもっと見やすくする方法とかを考えようと思っている。（施設は）基本的には研究などに使ってほしい。今は国でなく、市のものなので、有効に使って、ここからいろんな技術を生み出したりすればよいと思う。声問地区がそのメッカとして位置付けられればよいと思う。
- 市全体も人口減ではあるが、今後増えるよう一生懸命努力するし、可能性はあると思うから頑張るつもりでいる。実際どうすれば増えるかは難しい話。声問地区は街に近い郊外であり、もっと住んでほしいが、現実的にはお店が撤退したり、働く人が市街地から通って来るという現実はわかっているつもり。そういう意味では、この地区を活性化させる方策をこれからとって行かなくてはならないと思う。
- エネルギーサイトみたいなものをもっと生かして、人がそこに来れるような整備はしていきたい。（電力の）固定価格買取制度が出来て太陽光発電でも市にお金が入ってくるようになった。そのお金を出来れば市民に還元していきたい。この街にも（声問地区）反映していくことは考えなくてはならないだろうとは考えている。

②市民の皆さんから見るとインパクトに欠けるように見えるかもしれないが、先日経済産業省の紹介でタイのエネルギー関係者が視察に来るくらいに、いろんなところで稚内の取り組みが知られている。今後施設の大きさではかなわない街が出てくるかもしれないが、今私たちが取り組んでいる送電網の整備ができて、風車がたくさん出来れば稚内の街ががらっと変わるくらいを目指している。私達が次の世代に残していくものとして、再生可能エネルギーに取り組んでいる。もちろん観光的な要素も並行し整備を進めていきたい。



4. 地域の買い物事情について

◆参加者からの意見等

(要望)

①自分たちの地域は高齢者が多い。周辺にお店もないので買い物に大変困っている。移動販売車みたいなものが週に何回か来てもらうことなど出来ないだろうか？

- ・移動販売車でなくても、週に何回かバスでも来て乗せて行ってもらって、買い物をしたら届けてくれる方法でもよい。

②自分が住む国道から声問岬方面にかけてはお店もないから買い物も全部車。若い人もいるが高齢者も多い地域なので、いろんな面で困っている。夏はよいが冬は病院に通えないし雪の日も大変だと聞く。中には送迎をしてくれる病院もあるようだが、特別な例だと思う。毎日でなく、週に1, 2回でもよいので、バスなどが回ってきて買い物などに行けるとかあればよいと思う。
(これまでの話から)無理な事は言えないが、現実困っていることを市長に聴いてほしいと思う。

◆市長の発言

(市長)

①移動販売車も、もちろん所管課で検討はしているが、品数や値段など様々あって、それだけでは解決できない。違う方法もないかという話もしている。北海道や国(経済産業省)の出先機関も札幌にあるが、この問題を解決しようと乗り出してきている。

- ・他の地区でも困っているところはあり、所管課で議論し、移動販売車ではないがこんな方法はどうか？と解決しようとしている。声問地区でもどういう手だてがいいのか検討していると思う。地域といろいろ話をして、悩みを解決するとすれば何ができるか、より要求に近いものを実現するにはどんな方法があるのかの話をして、その上で検討していきたい。この問題はわが街にとって深刻で、身に迫っている問題の一つと捉えており、もう少し時間を貸してほしい。

②市の高齢者率は25%を越えており、4人に1人が65歳以上で、まもなく3人に1人が…という時代が来るとすれば、もうそういう社会を想定していかななくてはいけない時代になった。高齢者が5, 6割という地域もあり、街全体で、これからの主要なテーマとなっていくと思う。(次のページへ続く)

◆市長の発言（続き）

（市長）

今まではどちらかというと、働く世代を中心にして社会を作ってきたから、歩けばいい、車を運転すればいいと簡単にそういう話になったが、もうそういう時代じゃなくなったと最近つくづく思う。しかし財政には限りがある。高齢者の方に、ここまで頑張ってくれたことに対するお礼の意味合いも込めて優遇する部分もあったが、高齢者の方だけに優遇するのではなく、普通の人に普通の生活をしてもらうために、今まで考えなかったことをやらなければいけないんだろうと、そういう人たちが中心の社会を作って行かなくてはならないのだろうと考えている。高齢者が普通に暮らせるための何かを考えるという方向にシフトしていく時代に来ているのだろうと思う。

■ 検討状況など 【担当 …政策調整部市民協働課】

ふれあいトーク開催後、地域（岬地区）に出向き、高齢者（全員女性）の方々と意見交換を行いました。地域の要望としては、移動販売車を要望しているのではなく、バス停まで遠く（約1km）、特に冬は大変なため、地域から市街地までの交通手段が重要との回答をいただいております。

しかし、交通手段の決定には、路線バス事業者、タクシー事業者等との間で、問題点もあり、今後、地域の要望を取り入れるには、どのような手法が一番良いのか検討を行い、早い時期に地域へ方向性をお示ししたいと考えます。



5. バスでの通学事情について

◆参加者からの意見等

(質問)

①転勤で今年から稚内に住み始めた。中学校の息子が東中学校に通っており、バス通学しているが、夕方に1本逃すと1時間待たなくてはならない。これから暗くなるのが早い時期で、寒いし不便。家族も送迎はするが、この地域に中学校がなく、通う時間帯だけでもバスの増便や、バス以外でもよいので出してもらえると安心して生活できるかなと思う。

(意見)

- ・バスは登校時間帯に曲渕や宗谷方面から結構集中して走って来る。声問地区は市街地と違うから、クラブ活動も考えた時間帯で(お願いしたい)と東中の先生とも話しているが、学校も声問地区の子どもたちだけ対象にしている訳ではないからそういう状況も起きる。声問地区は広くて防犯活動もやっているが、親にすれば(遅くなるのが)心配の種と思う。

◆市長の発言

(市長)

①どちらかという声問地区は、市街地に接しているという意味で言えばバスの本数は多い方と思う。バスの市内線はほとんど赤字路線なので、補助金を出している。他の大きい街と比べると不便に感じられるかもしれないが…。不便で生活に支障が出るのであれば、何らかの手立ては打って行かなくてはいいけないが、全体的に本数を増やすのはバス会社の赤字を増やすことであり、補助金も増えることになる。決して出さないという話ではないが、ノシヤップ～潮見に次ぐくらい本数も多いので、時間帯でダイヤの変更などはお願いすることはやぶさかではない。

- ・時間帯については、地域から話を聴いて調整できるものがあれば。これまでも市が窓口になってバス会社と話をすることはやっているの、これについて所管課と話をしてみる。

■ 検討状況など 【担当…政策調整部市民協働課】

①声問地区は、路線バスの運行本数において、声問線・天北宗谷岬線・曲渕線の3路線が運行しており、運行数も市内の他の地域に比べて多い地域となっております。従って、今以上に運行数を増加することは困難な状況と考えます。しかし、運行時間帯については、地域の様々な方々(高齢者・中学生・高校生・通勤利用者等)と協議を行い、一番効率的な運行時間帯の設定については、バス事業者と検討し、変更することが可能ですので、地域で協議する場を設定していただければと考えます。

6. 地域の少子化対策について

◆参加者からの意見等

(質問)

①少子化と言われる中で、声問小学校も昔は児童も多かったが、今は少なくなっている。校区の枠が外されてから地元の小学校に通わず、校区外の別な学校に通う子もいる。

(意見)

- 声問小でなく別な学校に通う子をバス停や国道沿いに朝夕見るが、道路沿いを歩く姿を見て危ないと思う。地域でも歩いている子を知らなかったりする。帰りが遅くなってしまうと、暗いところを友達とでなく1人か2人で歩くことになる。地元の小学校に通えばそういう子も地域で守れるし、学校も対応できる。地域にはお年寄り含めたくさんの大人がいるので、見守れる地域にしたいと思っている。校区外通学は親の理由。子どもが事故や犯罪被害者にあわないよう、歯止めをかけてほしい。
- 前に教育委員会にも話したが、校区外通学の判断基準が曖昧と思う。市長からも伝えてほしい。

②この問題は共稼ぎが増えたこともある。市内には児童館もあるので預けやすい。声問にはそういうのが無い。そういう事情を教育委員会に話したところ、稚内初の放課後子ども教室を作ってくれたが、休みや授業の無い日は出来ない。そういう日もやってくれば子どもの面倒が見られる。

◆市長の発言

(市長)

①校区外通学は声問だけでなく全市的にいる。教育委員会も基準を決めて合致するかで判断していると思う。教育委員会には地域の声として伝えたい。

②放課後子ども教室は、教育委員会で夏休みにも実施した。冬休みも検討しているようなので、取り組みを見守るのが先と思う。教育委員会も皆さんからそういう話をされて問題意識は持っていると思う。一気にクリアできるか別としてそういう取り組みを進めている。

■ 検討状況など 【担当 …教育委員会学校教育課・こども課】

- ①区域外通学については「通学区域に関する規則」や「事務取扱要領」の中で許可基準を定めています。児童が帰宅した後の保護ができないなどいくつかの理由で区域外通学を認めているところです。区域外通学の許可にあたっては、今後も許可基準に基づき、地域の思いも十分に受け止めながらとり進めたいと考えます。（学校教育課）
- ②放課後子ども教室は、保護者の就労の有無に関わらず、声問地域の子どもや声問小学校に通う児童が放課後に自由に参加する事ができます。また、保護者の事情に応じて午後6時まで児童を預ける事もできます。
- ・放課後子ども教室では、通常のプログラムのほか、少年自然の家による出前講座事業や、地域交流会など地域とのふれあい事業を実施しております。また、学校行事やこども課の各種事業とあわせ、土曜日も開設することもあります。今年度は夏休みを利用したサマースクールを開校しました。今後、冬休み期間についても検討するほか、放課後子ども教室を通じて地域との連携・交流をさらに図ってまいりたいと考えております。（こども課）



7. 観光地の表示看板とイベントの駐車場について

◆参加者からの意見等

(質問)

- ①昔、北防波堤ドームまで汽車が入っていた。当時、終戦前まで樺太航路もあり、駅みたいな建物もあった。引込線が何本もあって、石炭や魚が貨車で運ばれた。ドームで開催のイベントに行った際に、観光客もドームを見て、これが何なのかわからないと言っている人が結構いた。若い市職員もいたがわからないようなので、稚泊連絡船の話も教えてあげた。ここに汽車が入っていたということが書かれているもの(看板)が一つもなかった。観光で来る人はそういうものを見ると、これが貴重なんだなと感じると思う。何もないので淋しいと思った。
- ②稚内でイベントをやるのはすごく良いことだが、駐車場が足りないと思う。声間から行くにはバスでなく車で行くのだが、車を止める所が無くて、戻ってくるか違う所に行くしかない。駐車場自体も止めてよいのかどうかというのがわからない部分が結構ある。

◆市長の発言

(市長)

- ①ドームと潮騒プロムナードの付け根の部分に北防波堤ドームの説明がある。駅も北防波堤ドームを意識してその方向に向いている。駅周辺にサインもいろいろ整備したが、ドームの歴史については触れられていない。ドームそのものには道路標識、電柱すら、物を建てるな、風景を壊すなと言われる。そういう意味で言うと、駅を整備して昔ここに汽車が走っていましたという意味で駅からレールを出しているが、その先にドームがあると説明をすればよかったのだが、それは今回反省材料としたい。どうできるかわからないけど、今聞いて思ったのは、私たち(市)はこれから港湾工事で北防波堤ドームを改修してほしいと国に働きかける。手だてがあるなら、それに合わせて(国に)話をして検討してもらおう余地はあると思う。あれは北海道遺産だから、わが街も大切にしていかななくてはいけない構造物だ。
- ②南中ソーラン祭をやった日がまさにそうで、駐車場探すだけで大変。北臨港駐車場から道の駅の方までかなり多くの駐車場を用意しているが、あのイベントはさすがにかなわない状況。普段はガラガラなんだけど、南極まつりなどはちょっと遠くて申し訳ないが、公共施設の駐車場も開けるので、そちらも使ってくださいとお願いするしかないと思う。

■ 検討状況など 【担当 …建設産業部港湾課・観光交流課】

①北防波堤ドームについては、国有港湾施設であることから、今後、施設所有者、工事施行者である稚内開発建設部に働きかけていきたいと思いを。

(港湾課)

②イベントの実施にあたっては、告知チラシ等において、駐車場の有無や公共交通機関を利用した来場を呼び掛けています。また、イベントの開催場所によっては、現地までのシャトルバスを運行しています。

今後も来場者への公共交通機関を利用していただくよう周知強化や交通機関と連携した取り組みを進めていきます。(観光交流課)

8. 道路の除草について

◆参加者からの意見等

(質問)

①地元を歩いていると道路の側溝、縁石のふちとか、すごい草がある。家の前、商店の前など草がぼうぼうの所がある。何らかの対策は出来ないか？

(補足意見)

・舗装してある部分に雑草が突き破って出てくる。道路のふちに防護柵が張ってある所は機械が使えないから中から歩道の方に入ってくる。民家のあるところは人が採っているが、民家の切れたところは歩くのに邪魔になるので車道に下りて歩くかということになる。

◆市長の発言

(市長)

①雑草が交通事故の元にならないよう、郡部での除草用に機械を購入した。自分の庭先は自分でやってもらうが、交通安全などいろんな観点で住民の負担を減らすために購入しているので、そういう意見はあることは土木課に伝えたい。

・まずパトロールが先であるが、これだけの土地があり見るだけでも大変。土木課にもいろんな声が届いていると思う。土木課も意識していると思うし、気が付いたら伝えてもらえれば。

9. 旧油採掘跡地について

◆参加者からの意見等

(要望)

- ①声問2丁目に昔の油採掘の井戸がある。油とガスと一緒に吹き出ているが、個人の土地。前も噴出したのはちょうど何年か前の地震の後。今のところは大事なことないが、大きくなれば側溝を通じて海に出る可能性も十分ある。井戸をなんとかできないか？
 - ・以前に港の浜付近でも一回あった。市役所で来て石とかで埋めてくれた。

◆市長の発言

(市長)

- ①出来る出来ないでなく、所管課に伝わっているか？住民生活に悪影響を与えているなら、持ち主だろうが言っていないといけない話だから、所管課に伝えてほしい。市として放置してくれという姿勢ではないので。

(市民協働課長)

- ・場所含め所管課で確認したい。

■ 検討状況など 【担当 … 生活福祉部生活衛生課】

- ①声問岬沿岸における原油採掘については、大正10年から昭和44年頃まで行われていました。最後の鉱業権は、帝国石油(株)がもっていましたが、平成2年に鉱業権を放棄しています。

声問岬沿岸には、当時の図面から19の坑井がありましたが、現在は、7つの坑井の痕跡しか確認されていません。このうちの一箇所から平成11年、12年、13年と3回に渡り原油の流出がありました。この時には、北海道海岸ということもあり、土木現業所が中心となり、北海道鉱山保安監督部や関係機関のほか、帝国石油(株)の協力もいただき、対応しております。この度、ご意見をいただいた井戸については、7年程前から原油の流出が確認されており、現在も、微量ではありますが、原油やガスの流出が続いております。民地ということもあり、今後どのような対応が可能か、北海道鉱山保安監督部とも相談し、検討するとともに、継続して監視業務を行ってまいります。

10. 信号の設置について

◆参加者からの意見等

(質問)

- ①道の建設管理部事業課(旧土現)から上がって国道と接する部分に信号が無く、冬に吹雪とかになると見通しが悪くなるので行政で検討してほしい。
 - ・その部分は手押し信号の横断歩道はあるが、普通の信号機をお願いしたい。

◆市長の発言

(市民協働課長)

- ①毎年町内会から要望いただいておりますが、公安委員会に話しているが、設置基準があることと、安全面、交通量などの部分で難しいという見解であった。要望はしているが、変わらないと思われる。交通量が下がると信号機を付けた際に重篤な事故が起こる確率の方が高いとの見解であった。町内会にはそのような回答をしている。

(市長)

- ・公安委員会が専門的な立場でそこに必要かどうか検討した結果なので、つけてもらう方が安全ですということを説明できない限り進まない。専門的な部分で見解が出されているが、地域での信号を付けてほしいとの要望なので、今後も地域と話をしながら要請はしていきたい。

■ 検討状況など 【担当 … 政策調整部市民協働課】

- ①信号機の設置については、以前から地域より要望があった事項ではありますが、市の考え方としては、市長が回答したとおりです。しかし、公安委員会には警察署を通して、地域から信号機の設置の要望が市にあったことは話をさせていただきます。



多くの皆さんにご参加いただき、活発な議論が交わされました。

ご参加いただき、ありがとうございました。